

観光情報誌「ならり」vol.37 秋冬号

特集：紡がれてゆく 奈良の近代建築

令和6年(2024)9月1日発行

「ならり」は、ゆったり、ぶらり奈良を楽しんでいただきたい、という思いから、2012年の創刊以来、旬の奈良市旅情報を発信している観光情報誌です。

【今号の特集】

紡がれてゆく

奈良の近代建築

明治から昭和初期に建てられた奈良の近代建築は、時を経た今も「奈良らしさ」を保ちながら、まちの風景と美しく調和しています。古都奈良の観光と言えば社寺めぐりが定番ですが、近代建築に目を向けると、また違った奈良のまちの魅力が見えてきます。

後世の奈良の近代建築に影響を与えたのは帝国奈良博物館本館（現国立博物館）と旧奈良県庁舎です。

博物館は明治27年(1894)に完成した。初めて登場した本格的洋風建築に、当時の人々は大変驚いた。(右写真)

1年後に奈良県庁舎が完成した。

風致形成との調和と工夫により奈良で生まれた「近代和風建築」

奈良県庁舎の設計は長野宇平治で、予算の制約やプレッシャーもある中、およそ1年で完成させた。(右下写真)

その意匠は、県の方針（擬洋風建築ではなく奈良公園にふさわしい和風の建物）を反映し、洋風と和風の特徴を併せ持つものでした。この記念すべき建物を「近代和風建築」の嚆矢（こうし）と位置づける研究者もいます。奈良の近代建築の方向性を決定づける出来事だったといえるでしょう。

文：本文より（部分）

写真：大和名勝写真帖（大正4年発行）

